

# 候補地選定要件を満たしていないことが、三度、証明されました！

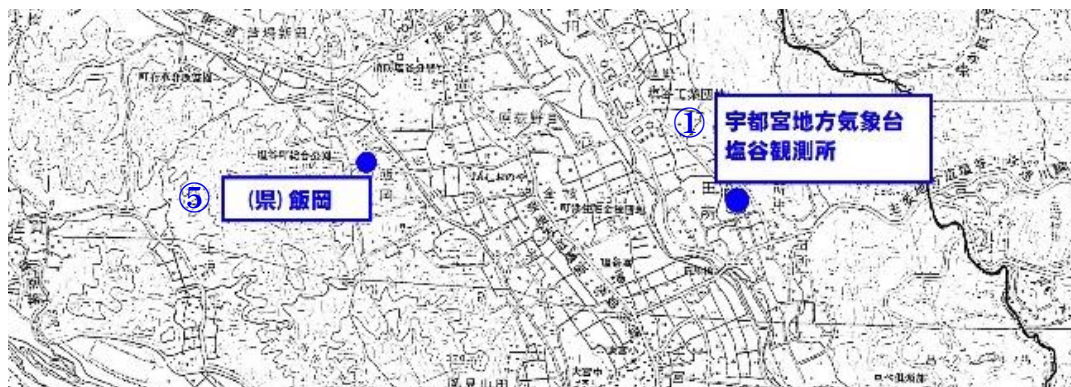
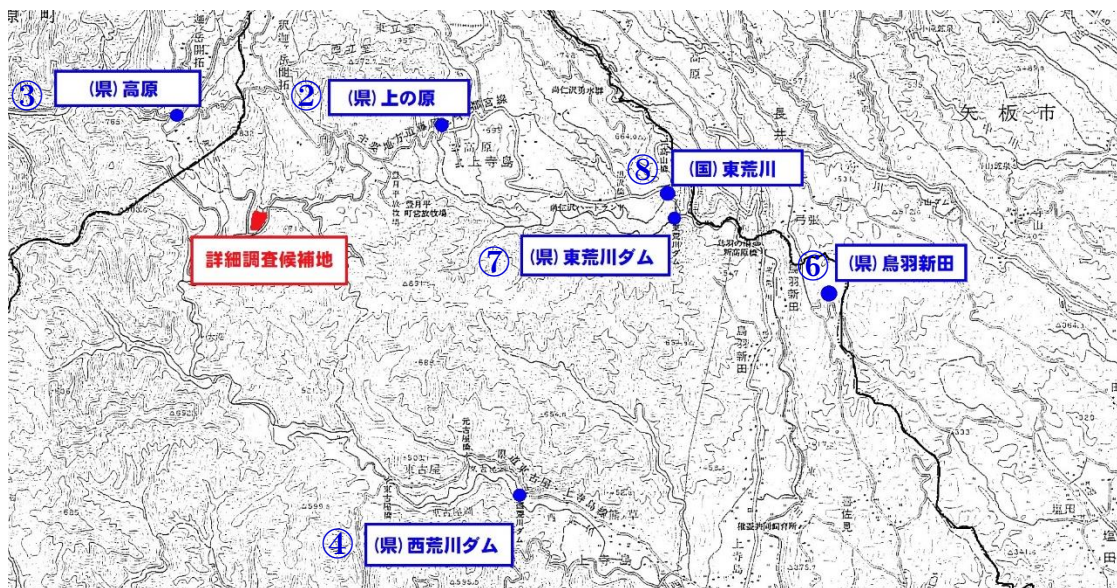
令和元年 10月12日（土）台風19号による詳細調査候補地の状況

## ■ 当時の気象状況

### 1 宇都宮気象台の発表状況

- ◇前日 10月11日（金）
  - 22:07 大雨、雷、強風注意報 発表
- ◇当日 10月12日（土）
  - 6:19 洪水注意報 発表
  - 13:44 大雨、洪水、暴風警報 発表
  - 18:45 土砂災害特別警戒情報 発表
  - 19:50 大雨特別警報 発表
- ◇翌日 10月13日（日）
  - 2:20 大雨特別警報 解除
  - 4:25 土砂災害特別警戒情報 解除
  - 4:58 大雨、洪水、暴風警報 解除

### 2 町内の各雨量観測局位置図及び雨量データ



## 〔各観測局の雨量データ〕

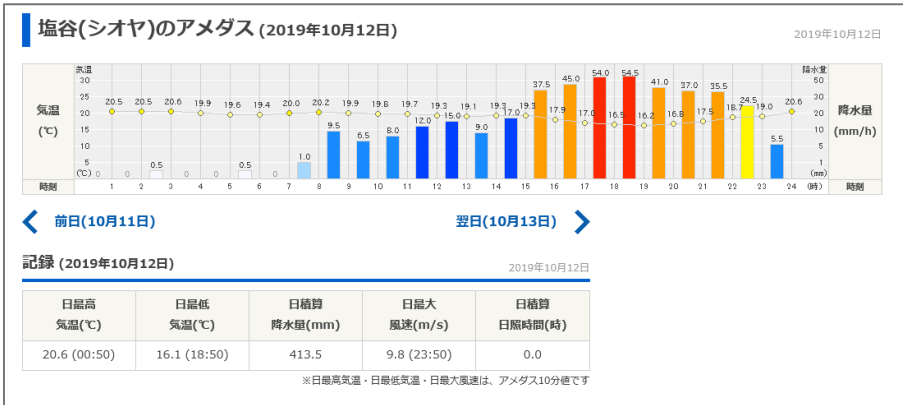
(※○番号は、雨量観測局位置図のとおり)

※「日本気象協会」及び「とちぎリアルタイム雨量河川水位観測情報」のHPより引用

(<https://tenki.jp>)

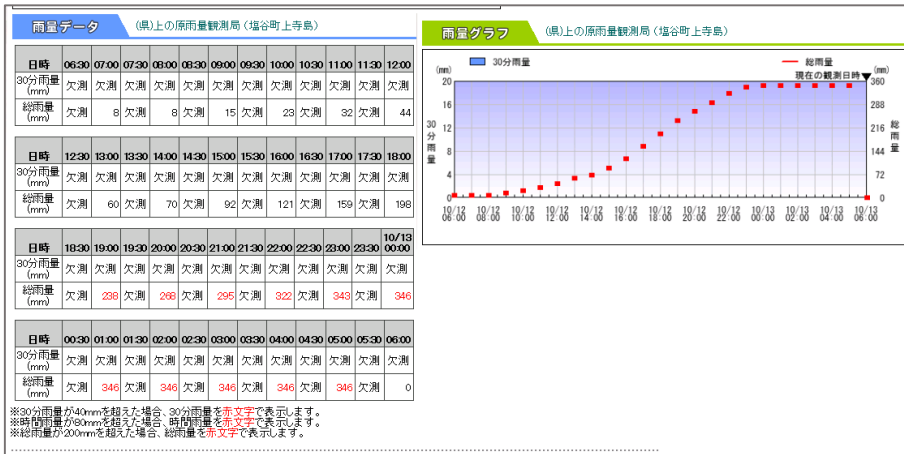
(<http://www.dif.pref.tochigi.lg.jp>)

### ① 宇都宮地方気象台 塩谷観測所 (田所) **413.5mm** (日積算降水量 観測史上最大)



令和元年10月14日(月)  
下野新聞 4面の記事

### ② (県) 上の原観測局 (上寺島) **346mm**



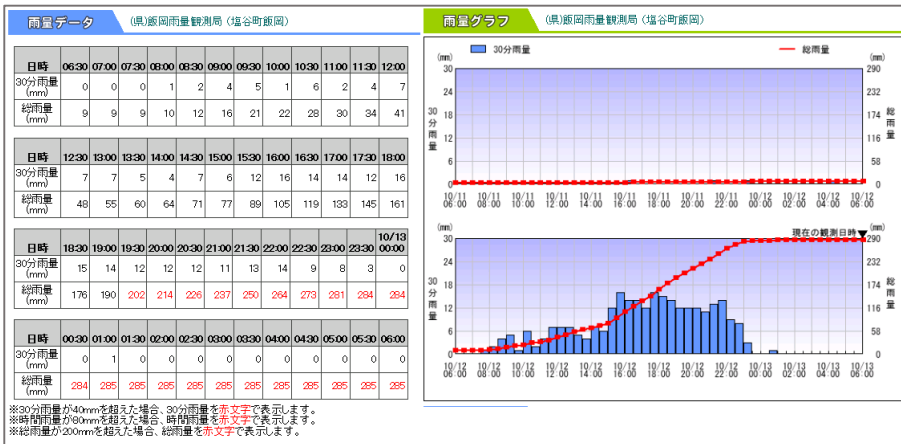
### ③ (県) 高原観測局 (日光市 旧藤原町) **243mm**



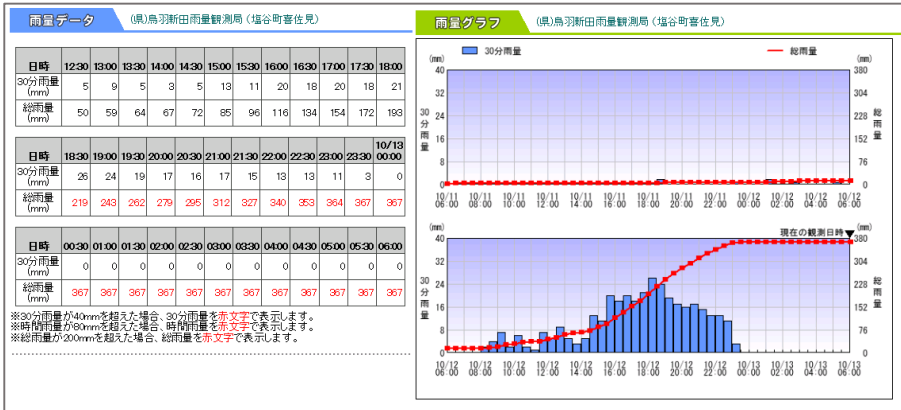
④ (県) 西荒川ダム (上寺島) 245mm



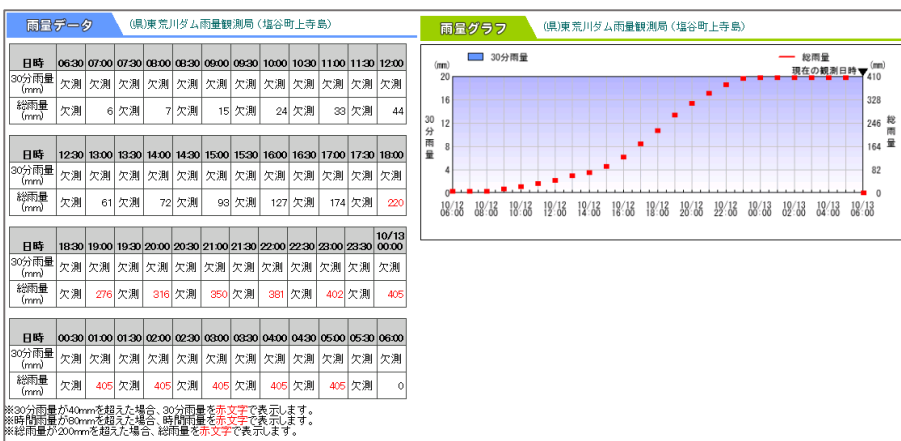
⑤ (県) 飯岡 (飯岡) 285mm



⑥ (県) 鳥羽新田 (喜佐見) 367mm



⑦ (県) 東荒川ダム (上寺島) 405mm

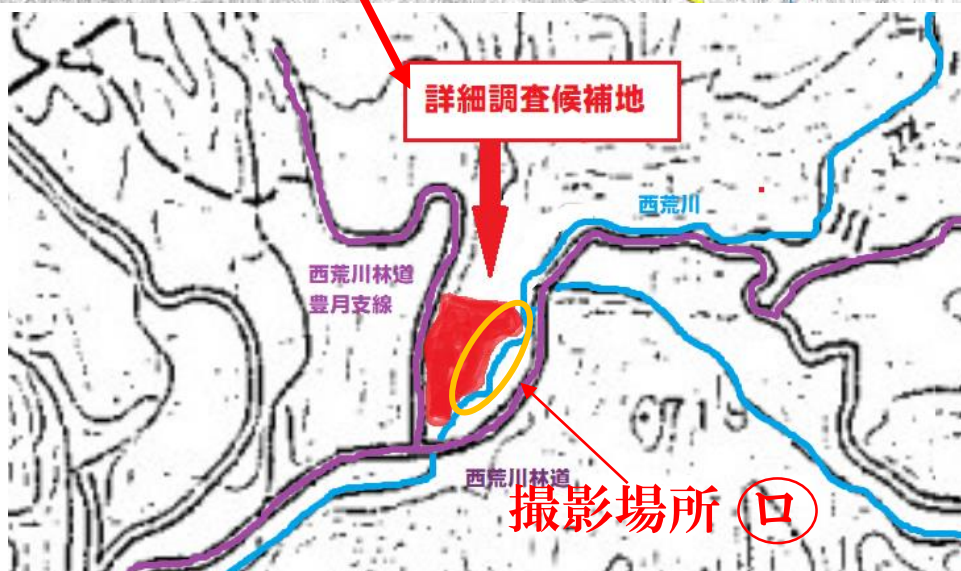
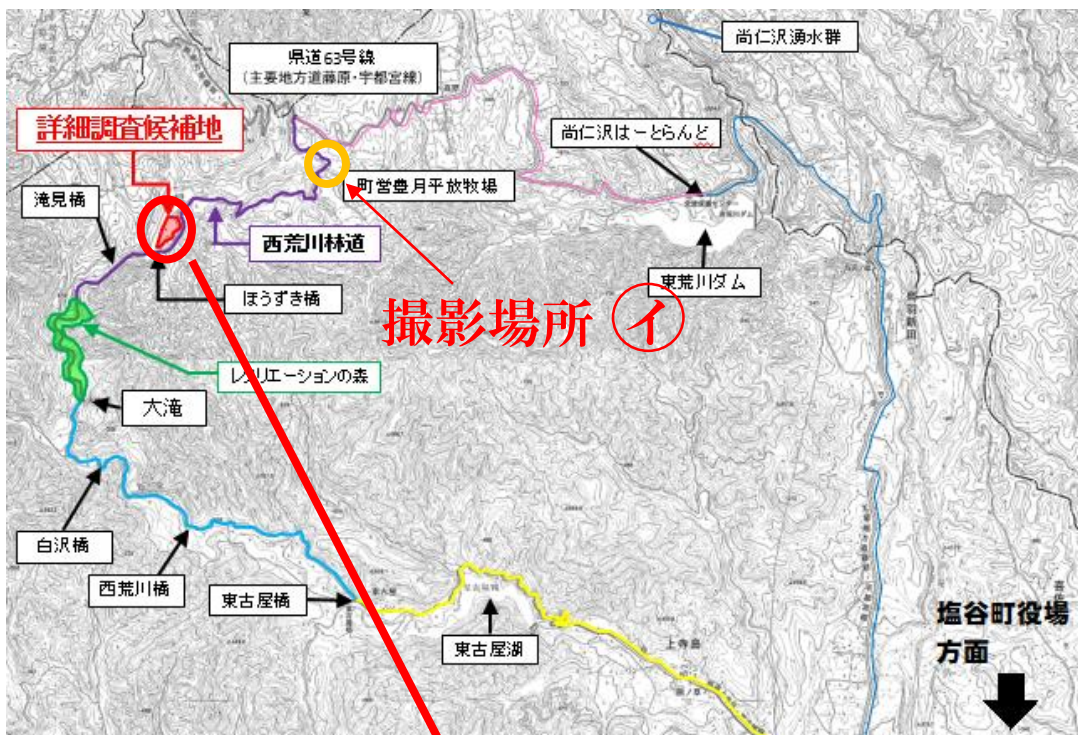


⑧ (国) 東荒川 (上寺島) 251mm



■ 台風19号による詳細調査候補地の状況

〔詳細調査候補地の位置図及び写真の撮影場所〕



◇西荒川林道の崩落状況 (撮影場所 ①)

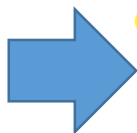
豊月平放牧場から候補地に向かう西荒川林道の約600mほど進んだ場所で、林道が3分の2ほど崩落していた。



◇詳細調査候補地の冠水状況 (撮影場所 ㊦ )



R1. 10/11 (金) (台風前日)



R1. 10/14 (月・祝日) (台風後)



※倒木の根の一番上に、水で流されたビニール袋が引っかかっていた

※マイポール(紅白)は、色が変わるごとに 20cm ずつ増えるので、140cm の高さに引っかかっている。  
これより上まで水位が上昇したのかも？



R1. 10/11 (金) (台風前日)

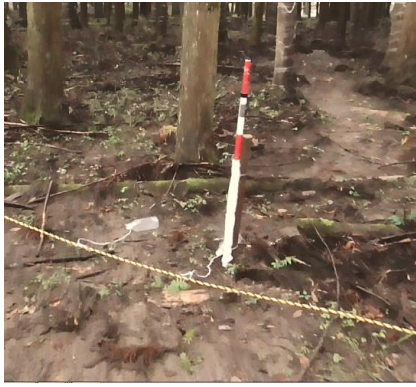
(※川から 2 m ほどの場所)



R1. 10/14 (月・祝日) (台風後)

※ポールやビーチボールは、汚れ、ボトルは川の方へ。  
引き込まれるように向いて引っ張られていた。仕掛けた  
空ボトルには、砂や泥水が、かなり入り込んでいた。





R1. 10/11 (金) (台風前)

(川から5mほど奥の場所に設置)

※マイポールの布は、泥水で60cm汚れ、  
空ボトルには泥水が入っている。

R1. 10/14 (月・祝日) (台風後)



R1. 10/11 (金) (台風前)

(※川から25mほど奥の場所に設置)

※候補地内の低い方の木に、ウエス(布)を巻き付けた。地面から指の位置まで、布は、泥水で40cm汚れていた。増水により、候補地を越水し、水は候補地内を横断して流れ、再び、川に注いだ。

R1. 10/14 (月・祝日) (台風後)



R1. 7/30 (火)

R1. 10/14 (月・祝日)

※浸食により、候補地がえぐられ、黄色丸部分の立木が1本、川をまたいで倒れていた。

樹齢はおよそ40~45年の杉。川がちょうどL字型のカーブであり、えぐられやすい部分の立木が今回、倒れた。赤丸部分の立木は、既に流され、無くなっている。

## ■ 過去の冠水状況 (2回)

### (1) 平成27年9月の関東・東北豪雨の詳細調査候補地



(平成27年10月14日に実施された環境省による影響調査の様子)





(環境省による影響調査の結果報告書) ※環境省HPより抜粋

長期管理施設の詳細調査候補地における「平成27年9月関東・東北豪雨」による影響に関する調査の結果について

平成27年11月30日  
環 境 省

【調査日時】

平成27年10月14日(水) 10:15~11:25

【調査目的】

- (1) 「平成27年9月関東・東北豪雨」(以下「豪雨」という。)による詳細調査候補地への影響について、専門的知識に基づき調査すること(本調査は詳細調査とは異なるもの)。
- (2) (1)の調査結果について、塩谷町に報告すること。

【調査場所】

栃木県塩谷郡塩谷町寺島入地内(詳細調査候補地内及びその周辺)

【調査実施者】

環境省：谷和夫・東京海洋大学教授(環境省指定廃棄物処分等有識者会議委員)  
熊倉基之・環境省指定廃棄物対策担当参事官室計画官  
山崎寿之・同室長補佐  
佐藤朗・同室長補佐  
新崎晃・同室長補佐  
箕輪富男・環境省関東地方環境事務所保全統括官

【立会者】

栃木県：西村友良・足利工業大学教授(栃木県指定廃棄物処分等有識者会議委員)  
湯澤元浩・環境森林部参事  
久保昌幸・環境森林部廃棄物対策課長 他  
塩谷町：見形和久・町長  
星育男・指定廃棄物処分場対策班長  
手塚礼知・町議会議長 他

【調査結果】

1. 視認などにより確認した現地状況
  - ・詳細調査候補地内の地表面の一部に帯状に細砂(細かい砂)が堆積していることを確認した。(写真①)
  - ・詳細調査候補地内及びその周辺の土砂は、層厚が薄いことや粒度が細かく、巨

- 石が含まれていないことを確認した。
- ・一定方向に倒れた低木や立木に捕捉された流木を一部確認した。
- ・蛇行部の外側の攻撃斜面では、侵食を受けて側壁に固結した地層(火山砕屑岩)が露出する場所が一部見られた。(写真②)
- ・地盤への被害を与えるような河川のはん濫を証明する事象は確認できなかった。

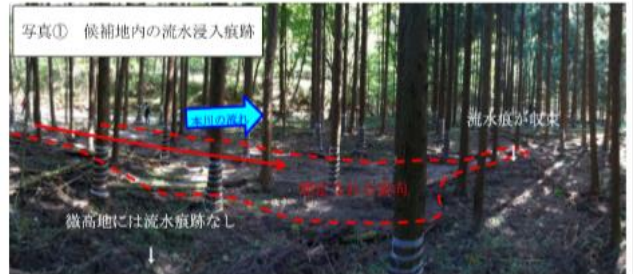
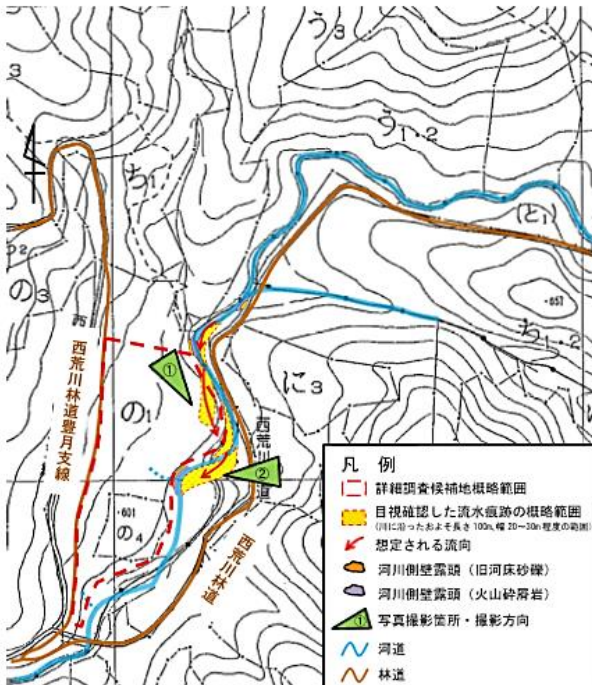
2. 考察

- ・詳細調査候補地内の地表面の一部に帯状に堆積している細砂は、冠水の形跡と考えられる。
- ・正確には測量が必要であるが、詳細調査候補地内及びその周辺のうち、川に沿ったおよそ長さ100m、幅20~30m程度の範囲に冠水があったと考えられる。  
※詳細調査候補地の面積は約3.0ha(うち長期管理施設の必要面積は約2.8ha)。冠水があったと考えられる長さ100m、幅20~30mのエリアは、計算すると0.2~0.3haに相当するが、実際にどの程度の面積が冠水したかは測量しないと分からない。
- ・冠水があったと考えられる場所の堆積物は主に細砂であることから、流入した水の勢いは強くはなかったものと考えられる。
- ・蛇行部の外側の攻撃斜面の侵食については、苔や草木が繁茂していないことから、比較的新しい侵食であると考えられる。一方で、豪雨でどの程度浸岸が後退したのかは不明である。
- ・詳細調査候補地内及びその周辺の土砂は、層厚が薄いことや粒度が細かく、巨石が含まれていないことから、大規模な土石流の影響を受け易い場所ではないと考えられる。

3. 結論

- ・豪雨により、詳細調査候補地内の一部で冠水があったものと考えられるが、冠水があった場所に流入した水の勢いは強くはなかったと考えられる。
- ・詳細調査候補地の周辺の溪岸の一部に豪雨による水流で侵食されたとと思われる場所があった。
- ・冠水があったと考えられる面積や蛇行部の侵食の程度など、今回の豪雨及びこれに類する大雨による影響をより正確に把握するには、過去の降雨量の確認と併せて測量や踏査を行うなど更なる調査が必要である。

詳細調査候補地及びその周辺の地図



(2) 令和元年7月24日(水)の大雨の詳細調査候補地



過去、2回確認されたの冠水の実と、今回の台風19号による冠水で、  
候補地選定要件を満たしていないことが、<sup>みたび</sup>三度、証明されました！